

「ヘリポート付深江丸5世の誕生を・・・」

学部長 西田 修身

甲申之歳は喜怒哀楽の激しい年でありました。アテネオリンピックではメダルラッシュで睡眠時間を裂いてまで楽しませて頂きました。その反面、台風の連続襲来並びに中越震災と大変な年でありました。我々、阪神地域に居を持ち、職場を有する者にとって、10年前の1月17日(火曜日、満月)の未明マグニチュード7.2は記憶に新しいものです。「生と死のはざままで、人々は逃げまどい、絶句し、いら立ち、号泣したこと。破壊した街からの死傷者の救出、迫り来る火の手。家族との絆、食料・水の要望等で混乱する被災者、現地から次々と飛び込む悪夢のような報告に血の気を失う関係者、ショックで打ちのみされもがき苦しんだこと」を繰り返し、心に焼き付ける必要があります。同時に白鷗寮生による地域住民約100名の救出記録を伝承すべきであります。全体の被害状況は、死者6,433人、行方不明者3人、負傷者43,792人、避難者(神戸市内:236,899人)、全壊104,906棟、半壊144,274棟、一部損壊263,702棟、建物火災261件、ボヤを含む火災家屋7,483棟と、未曾有の災害でした。

小生は2日目甲子園より徒歩でキャンパスに入りました。グラウンドの亀裂と液状化現象、食料と生活用水の不足を痛感し、夜は深江丸に随分お世話になりました。その折、海から航海訓練所の練習船や広島大学の練習船、さらに弓削丸等による食料や諸機具類等を多量に搬入していただき、約500名以上の被災者に潤いを与えることが出来ました。ゆえに崩壊と火魔による被災者の救助の一方策として海水の利用と、海・船からの救援活動に目を向けるべきです。船はヘリポート付で、レスキューロボットを搭載し、約50ktで急航できることが望ましいと思います。現深江丸4世は建造後約18年が経過しており、次期代船には以上の点を十分配慮した千トン級の練習船を神戸地区に保有することを切に願っております。

最後に、台風及び震災により被害を受けられた方々の一日も早い復興を祈ってやみません。

(参考資料: 読売報道写真, 阪神大震災全記録,(平成7年3月13日発行), 読売新聞社)

平成17年1月17日(月)